

農林水産大臣 野上 浩太郎 様

要望書

2020年11月27日

大量出没は、山に実り（液果、堅果、昆虫等）がないことが原因です

人身事故防止・クマ絶滅回避のために

えさ場・生息地復元と棲み分け対策に公的な支援を



～豊かな森を次世代へ～

一般財団法人 日本熊森協会（実践自然保護団体）
（本部事務所）〒662-0042 兵庫県西宮市分銅町1-4

Tel : 0798-22-4190 Fax : 0798-22-4196

Mail: contact@kumamori.org

会長 室谷 悠子（弁護士）

設立 1997年 会員約 17000人

2019年に引き続き、2020年の今年も全国的に山の実りが凶作～大凶作の上、ドングリ類を枯死させるナラ枯れが全国的に大発生しており、クマの本来の生息地に食料がない危機的な状況が発生しています。

奥山の自然林の急速な劣化は酸性雨（雪）や地球温暖化による異常気象等が考えられますが、いずれにせよ、人間による環境破壊の結果です。

今年も、大量のツキノワグマが食料を求めて人里に出没し、大量捕殺が続いています。畏により安易にクマを誘引し、捕殺できること、中山間地域の過疎と高齢化により、クマを寄せ付けない集落づくりができなくなっていることも、乱獲に拍車をかけています。

このような状況を放置しておけば、クマの生息数は激減し、地域的な絶滅も必至です。

また、**①クマの食料をどう確保するか、②地域がクマに対する正しい知識を持ち、棲み分け対策に力を入れられるか**ということが、今後の人身事故防止のためにも極めて重要です。人里に出てきたクマを追いかけまわしてパニックにさせる対応は、人身事故を誘発しています。人口が急速に減少している中山間地域では、これまでできていた野生動物を寄せ付けない集落づくりができなくなっており、緊急の公的支援が必須です。

24年間、クマの棲める森づくり、人身事故防止やクマとの共存のための実践活動、調査研究を続けてきた自然保護団体として、以下の通り、要望します。

【クマの人身事故防止と棲み分け対策のための要望】

鳥獣被害対策予算、森林整備関連予算、森林環境譲与税などを活用し、クマの生息環境整備と人身事故防止及び棲み分け実現のため、以下の対策を実現ください。

1 人が気をつけることで人身事故は防げます。潜み場除去のための草刈りや誘因物除去など人身事故防止対策を鳥獣被害対策予算で実現させてください

人とクマの至近距離での突発的な遭遇が人身事故の原因です。過疎と高齢化により、これまでできていたクマを寄せつけない集落づくりができない地域が多くあり、公的支援が不可欠です。捕殺のための事業メニューはたくさんありますが、一番必要な被害防除のための予算を充実させ、利用しやすいものにすることが急務です。

2 里のどんぐり、オニグルミ、カキ・クリなどをクマに分けてやってください。人身事故の危険がある場合は、実をもいで山へ運んでやってください

栄養補給ができればクマは山に戻って冬眠します。緊急事態として人里周辺の木の実を食べに来たクマには近づかないでそっと見守ってください。木の実と民家が近く、人との接触の可能性がある場合は、実をもいで、山へ運ぶことも鳥獣被害対策予算で実現できるようにしてください。

3 根本対策として、生息地・奥山の広葉樹林の復元を至急進めてください

奥山にクマの生息環境があれば、クマと人は以前のように棲み分けて共存することができます。時間はかかりますが、根本対策である放置人工林の広葉樹林化や奥山自然林の劣化を止めるための土壌改良など、さまざまな対策が急務です。

森林整備予算、昨年創設された森林環境譲与税を活用し、奥山の広葉樹林化を至急進めてください。これは、保水力豊かな災害に強い森をつくることでもあります。

4 クマが里に出てくるのを押さえるために、山裾にクリなどを植える「クマ止め林」を造るための事業に公的補助が使えるようにしてください

奥山の自然林劣化の回復には時間がかかり、今後も奥山のエサ不足の頻繁な発生が予測されます。クマが人里に出て来ないように、集落から離れた里山にえさ場を作っていくべきです。

これらも鳥獣被害対策予算や森林整備予算、森林環境譲与税の活用により実施できるようにしてください。